



アカンサス おおさか

発 行 者
岡山県立津山
工業高等学校
同窓会大阪支部

ご挨拶



大阪支部長

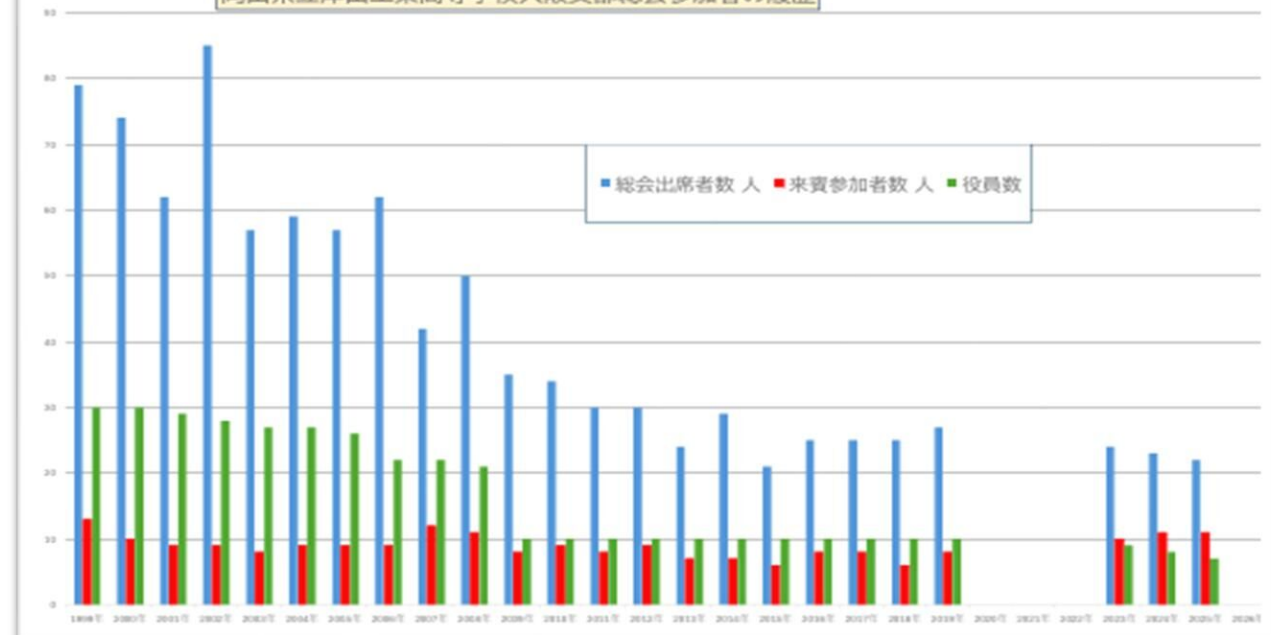
土木科 43 年 萩原 昇

岡山県立津山工業高等学校同窓会大阪支部の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また平素は支部活動にご理解と多大なるご支援を頂き厚く御礼申し上げます。世界ではトランプアメリカ合衆国大統領が 2 月末には「イランの核開発を阻止するため」ご大儀を掲げてイスラエルと共にイランへ攻撃をしかけました。イランの報復でホルムズ海峡は閉鎖され戦争は長期化の兆しが見えています。日本への殆どの原油供給は止まったままで我々の生活にも様々な影響が出てきていて一日でも早い停戦から終戦になるよう願っています。昨年春に開催された関西万博ですが開催前はチケットの買い方が解らん、誰も行かない、赤字のタレ流しになる等、批判続出で始まりましたが好評で大盛況のうちに閉幕して万博ロスになっていたオバさんたちも私の周りにいました。大阪市民の一人としては赤字にならんで良かったと安堵すると共に跡地の利用をうまくやってほしいと思っています。そんな中で大阪支部は今年で創立 30 年を迎えました。平成 9 年の創部から大阪支部会員、本部同窓会、各支部の皆様のご長きに渡るご支

援ご指導を頂き無事 30 周年を迎えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。大阪支部創成期から現在まで同窓会活動の継続に係わって頂いた先輩諸氏と支部の歴史について述べさせて頂きます。(敬称略)初代支部長 C 29 藤木庄治副支部長 C 38 武川明弘、M 30 安藤知美、C h 42 安東久夫、E 39 花谷立見、事務局局長 M 36 好川照一、相談役 A 30 平尾重親、会員数 1,166 名、幹事 30 名、総会参加者 79 名で始まりました。2 代目支部長 C 43 萩原 昇、事務局局長 C 43 松原 徹、3 代目支部長 A 45 高山卓士、事務局局長 C 43 松原 徹、4 代目支部長 A 45 森次芳朗、事務局局長 A 52 赤坂福生、(2020 年から 2022 年の 3 年間はコロナウィルス感染拡大期で活動休止)5 代目支部長 C 50 岸部祐司、事務局局長 A 52 赤坂福生、岸部支部長の急逝により 6 代目支部長 A 45 森次芳朗、7 代目支部長 C 43 萩原昇、事務局局長 A 52 赤坂福生と続いて来ました。大阪支部の現状についてお知らせしたいと思います。2002 年には最大 85 名の参加者があった総会・懇親会も国家公務員の倫理規定発出、施工等の影響を受けたのか 2003 年

には 57 名となり、その後漸減して 2013 年には 30 名を切って 24 名となりその後の参加者は 20 数名で推移しています。種々の原因はありますが主には大阪で就職する卒業生が少なくなっていること、また同窓会員の我々も高齢化により年々同窓会への参加ができ辛くなっていることが原因と思われる。掲載しました総会参加者数のグラフにありますようにコロナ感染拡大期前から参加者は 20 数名で推移していて、その内訳は来賓と幹事がほとんどを占めています。このように来賓の皆様方に参加して頂けなければ懇親会が成り立たない状況になっています。支部幹事も高齢化で減少していて若返りを期待した(前)岸部支部長が急逝され(2)高山支部長も亡くなられて幹事は数名となっています。現在まで色々と総会参加者を増加する対策を検討して実施してきましたが効果が表れず現状に至っています。また、ここ数年の物価上昇で会場等の開催費用も 5 割以上値上がりしてきていてイランでの戦争の状況しだいでは一人当たりの費用が一万円を超える状況になり総会・懇親会への参加者がいなくなるのではと心配しています。何とか一人でも多く皆さんに参加して頂き「大阪支部を継続していきたい」の思いで幹事一同努力してきましたがこのような状況下であり来年度以降、事務局は残して支部活動を休部とさせて頂きたいと考えています。30 年間の長きに渡り先輩諸氏から受け継いできた大阪支部ですがこの様な状況をご理解頂き残念ですが皆様のご承諾をお願い申し上げます。

岡山県立津山工業高等学校大阪支部総会参加者の履歴



7 月 4 日土曜日に第 30 回総会・懇親会を開催しますので是非おいで下さい、お待ちしております。

最後になりましたが会員の皆様
の益々のご健勝を祈念してご挨拶とさせて頂きます。

ご挨拶

同窓会長

工業化学科41年卒

竹内 佑宜



岡山県立津山工業高等学校同窓会大阪支部の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素から本校同窓会本部の運営に関しまして、多大なるご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年の支部総会では皆様の元気で活躍されている姿に接し、とても心強く感じました。

昨年の津山まつりでは、昭和100年を記念し10月19日、「だんじり」が大隅神社では7台、高野神社では9台が出勤、そして

10月26日は津山まつりのファイナーレとして徳守神社の大祭が行われ18台の「だんじり」が出勤し、日本三大神輿の一つとされる大神輿が練り歩きました。日本名城、歴史公園、さくらの名所、日本100選の津山が一番光っている春です。今年も関西圏

からもたくさんの方々がお見えになり、おおいに盛り上がりました。さて、同窓会活動ですが、5月に支部連絡会・本部・津山支部合同での総会・懇親会が開催され

会員の皆様が元気で活躍されている姿に絆の強さを感じ勇気づけられました。

各支部の活動ですが、昨年度は東京・兵庫・真庭・岡山支部と総会・懇親会が開催され皆さんと久しぶりに再会し、力強い絆を感じました。

今年も2月27日に同窓会入会式が行われ200名の新同窓会員が誕生しました。

同窓会活動の目的は、同窓生の繁栄と結束、ひいては母校発展への支援であります。

大阪・東京をはじめ同窓会活動は皆さん大変苦勞されておりその現状は承知しております。本部と致しましては、各支部の活動が少しでもやりやすいように支援していく所存です。

最後になりましたが、同窓会大阪支部の皆様方の益々のご健勝を祈念して、ご挨拶といたします。

ご挨拶

学校長

日笠 剛



未来を拓く工業人材の育成に寄せて

このたび、岡山県立津山工業高等学校校長に着任いたしました、日笠 剛と申します。

同窓会大阪支部の皆様には、平素より母校の教育活動に対しまして格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。関西の地にあつて各界でご活躍の

皆様が世代を超えて母校を思い、後輩を励まし続けてくださっていることは、在校生・教職員にとりまして何よりの励みであり、大きな誇りであります。日頃よりさまざまな形でお力添えをいただいておりますことにも、深く感謝申し上げます。

さて、令和7年度卒業生は、それぞれの夢と志を胸に新たな道へと歩み出しました。今年度は、関西圏を中心に県外企業へ就職する生徒が例年以上に増加いたしました。その背景には、生徒一人ひとりの進路意識の広がり

に加え、全国的な人手不足を受けて企業の採用活動が広域化している現状があると感じております。そして、この傾向は今後も続くことが予想されます。

経済産業省の2040年の就業構造推計によれば、少子高齢化の進行により就業者総数は減少する一方で、AIやロボットの活用が進む中でも、現場を支える実践的技術者の不足が深刻化すると見込まれています。特に理系分野の専門職・技術職人材は大きく不足する可能性が示されており、ものづくりの現場を担う高卒工業人材の重要性は今後ますます高まるものと考えられます。確かな基礎技術と現場対応力を兼ね備えた人材は、地域においても全国においても不可欠な存在であります。

本校はこれまで「地元産業の担い手育成」を大きな目標に掲げ、自治体や地元企業の皆様と連携しながら、故郷津山の産業振興と地域活性化に力を注いでまいりました。その歩みを思えば、地元

に優れた人材を送り出したいという願いは変わりません。一方で、広い世界へ挑戦し、多様な現場で技術を磨こうとする若者の姿の前にすると、その志を心から応援したいという思いもまた強く湧き上がります。

結びに、大阪支部の皆様のご健勝とご多幸、ならびに支部のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。



ご挨拶

真庭支部長

土木科44年卒

宮田 克己



同窓会大阪支部の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。平素より、真庭支部同窓会の活動に御協力を賜り衷心より御礼申し上げます。

昨年は真庭支部総会（第31回）懇親会には大阪支部から萩原支部長のご臨席をいただきました。また、7月には大阪支部総会にご招待いただきありがとうございました。

和気あいあいと楽しい時間を過ごさせていただきました。各支部ともに参加者の増員に苦勞をしていますが令和の卒業生も見受けるようになってきています。改めて継続的な声掛けが必要だと痛感しました。

私事ですが、令和7年度津山工業高校に週2日非常勤講師として勤務しています。主に土木科3年生に製図・測量を教えています。また放課後には部活動指導員として弓道部の指導も行っています。素直で熱心な生徒が多く楽しく、またやりがいを感じて活動しています。土木の生徒はおおむね建設関係に就職しますが国立の大学にも進学する生徒もおり、と

も将来楽しみで建設業界を支えてくれると期待しています。雑感ですが幸田露伴の「努力論」が目に残りましたので少し内容を紹介します。幸せの工夫について3つの工夫を述べています。一つは「惜福」の工夫ができる人になる。惜福とは福を使い果たし取り尽くしてしまわないことです。次は「分福」の工夫のできる人になる。分福とは自分の得た福を他人に分け一緒に楽しむこと。そして最も必要なのは「植福」の工夫ができる人になる。植福とは自分の力・情・智をもって人の世に幸福をもたらすことです。人生の後半、今迄得たキャリアを後世にいかにか伝え貢献できるかが私たちの務めだと思います。私自身も微力ながら貢献できたと思う今日この頃です。

終わりにりましたが、同窓会大阪支部の皆様の方のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

**令和7年度懇親会の皆さんです！
皆様のご参加をお待ちしています。**



高林学校長



平野 津山支部副支部長



宮田真庭支部長
皆様のご健勝を祈念し乾杯🍷



竹内本部同窓会長



平田 岡山支部監査役



**岡山県立津山工業高等学校
同窓会大阪支部**



令和8年度の懇親会は！

7月4日 土曜日 午前11時から

ニューオオサカホテル

新大阪駅 1 階正面出口を南に徒歩3分 電話 06-6885-0085

ご挨拶

兵庫支部長

土木科四十六年卒

中山逸志



津山工業高等学校同窓会大阪支部の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、大阪支部創設30周年とお伺い致しました。重ねてお祝い申し上げます。

さて、国内外の情勢に目を向けますと、日本では昨年の10月21日に日本史上初となる女性の高市早苗内閣総理大臣が誕生しました。就任後国内外の任務をスピーディーに遂行した後、今年の1月23日に急きよ衆議院を解散して2月8日投開票の結果、自民党の圧勝となりました。世界の少子高齢化国である日本の現状を踏まえ、将来を見据えた希望の持てる国造りを是非ともお願いしたいと思います。また、海外では依然として、ロシア・ウクライナ及びイスラエル・パレスチナの戦争は収束の目途が立っていません。さらにベネズエラ大統領拉致事件に続き、アメリカ・イスラエルのイラン攻撃により、1973年の第1次及び1979年の第2次オイルショックを彷彿

とさせる原油価格の高騰や原油の供給不足が世界の経済や生活に深刻な影響を及ぼしています。速やかにトランプ旋風が沈静化し、平和な世の中が訪れることを祈ります。

一方で面白い話題は、WBCやイタリアで開催された冬季オリンピックでの日本選手の活躍には感動しました。さらに6月から開催されるサッカーワールドカップでの日本チームの活躍や大リーグでの大谷選手をはじめ日本人選手の活躍が期待されます。

ここで兵庫支部の現状について報告させていただきます。兵庫県在住の支部会員は平成30年には約360名おられました(平成30年版津工同窓会名簿による)。現在年齢はほとんどが60才、80才後半です。また、支部運営は6名の役員で支部会費と本部からの支部助成金を資金に何とか実施しておりますが、今後の継続的な活動に苦慮しています。この度、3月に兵庫支部会報「アカサスひょうご」第24号を発行しました。今回は直近の会費納付状況等を参考にして、発行部数を従来の約330部から約100部に減少しました。その中に今後の兵庫支部活動についてのアンケート返信ハガキを同封しました。その結果を踏まえ、今後の支部活動の継続に反映していきたいと思っています。

私事ですが、73歳になりましたが、周2日の仕事、月1、2回のゴルフ、月1回程度の実家帰省などお陰様で元気に過ごしております。世の中の進化・変化が著しい中、情報に振り回されないように、感謝の気持ちを忘れず、足を知る者は富むを心がけて、日々

新たにゆったりと暮らしていきたいと思っています。終わりにになりましたが、大阪支部の皆様の益々のご健勝を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

真庭支部総会・懇親会

令和7年11月9日土曜日

「真庭あぐりガーデン」にて第31回が開催されました。若い方が多数参加されていて明るく元気で活気のある懇親会でした。大阪支部から萩原が参加しました



岡山支部総会・懇親会

令和8年1月24日土曜日
参加者 80名程で盛大に開催されました。大阪支部から森次が参加しました



編集後記

大阪支部の創立30年の記念号が最後の会報になりそうに寂しいです。支部発足の時は46歳だったので若くて元気だったけど30年の間にちゃんと歳相応に目もかすんで来て、24回目の編集作業もやっと完了しました。ここ数年は皆さんからの寄稿も少なく写真で何とか埋めた感があります。事務局はA52赤坂さんが継続してやって下さいますので何かあれば気軽にご連絡下さい。

津山工業高等学校
同窓会大阪支部

〒580-0017
大阪府松原市柴垣1の1の30
(株)猪木工務店内
TEL072-332-5455
FAX072-333-5005
E:mail
akasaka@inoki.co.jp

